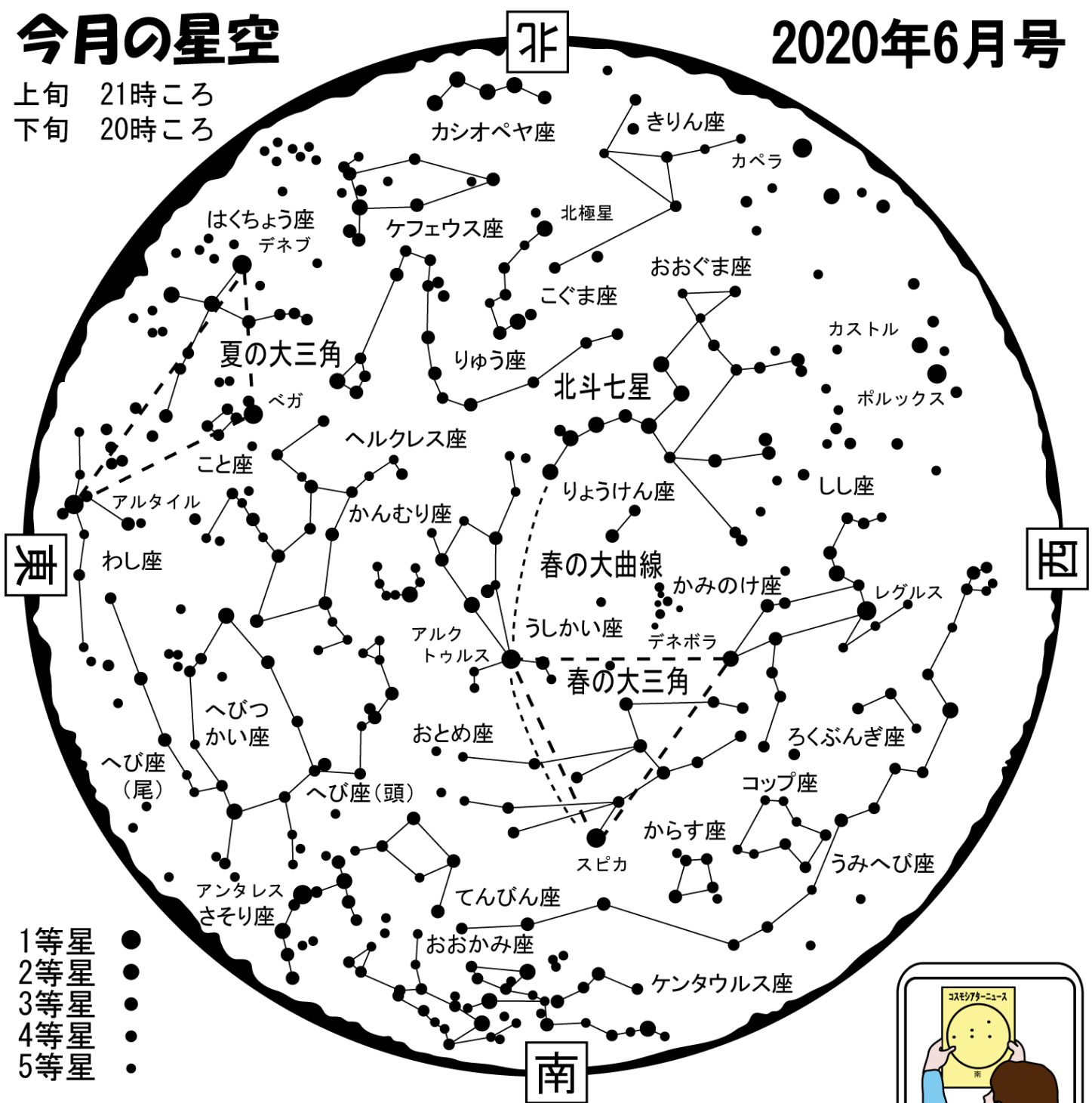


# コスモシアターニュース

## 今月の星空

2020年6月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



### 今月の惑星の動き

- 水星：上旬の夕方、西の低い空に、見えます。明るさは1等星です。
- 金星：下旬以降の明け方、東の空に見えます。明るさは-4.5等星です。
- 火星：真夜中すぎ、東の空に見えます。明るさは0等星です。
- 木星：真夜中ころ、南東の空に見えます。明るさは-3等星です。
- 土星：真夜中ころ、南東の空に見えます。明るさは0等星です。

### 今月の月の満ち欠け

満月：6日(土) 下弦：13日(土) 新月：21日(日) 上弦：28日(日)



自分の向いている方向を下にして、見てください

## 8日(月)、深夜、南東の空で、月と木星、土星が並んで輝く

8日(月)の22時ころ、南東の空からほぼ満月の明るい月が昇ります。この月の上側を見ると、二つ明るい星が見えるでしょう。このうち右側の明るい星が木星、左側の少し暗い星が土星になります。

月が昇ったころは、高さが低く見つけにくい状態です。見やすいのは、月の高さが少し高くなる午前0時ころです。

## 13日(土)、明け方、南東の空で、月と火星が並んで輝く

13日(土)の未明、午前1時ころ、南東の空からほぼ半分に欠けた月が昇ります。この月の左側を見ると、オレンジ色の明るい星が見えます。この星が火星になります。

月が昇ったころは、高さが低く見つけにくい状態です。見やすいのは、月の高さが少し高くなる午前3時ころです。

## 19日(金)、明け方、東の低い空で、月と金星が並んで輝く

19日(金)の明け方の午前3時半ころ、細い月が東の空に昇ってきます。そして、この月に少し遅れて、左下に昇ってくるのが、明けの明星・金星です。5月に宵の明星として見えていた金星が、明け方に見えるようになったのです。

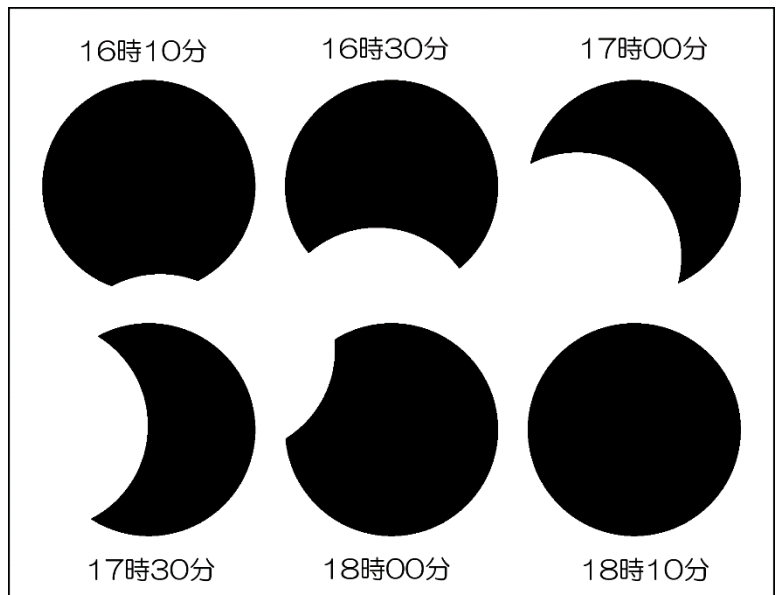
ただし、高さが低く、見え始めたころは、朝焼けが始まっているので、時間がたつとすぐに見えなくなります。見やすい時間帯は午前4時ころ、東から北東の空が見晴らしのいいところをご覧ください。

## 21日(日)、部分日食が見られる

21日(日)の16時ころから18時すぎに欠けて、太陽の一部が欠けて見られる、部分日食が起こります。見える方向は、西の空で、最大で60%ほど欠けます。

肉眼で見えるのですが、太陽の光が眩しく、太陽観察専用のメガネを使用しないと、失明の恐れがあります。必ず、専用の器具を使用してください。なお、コスモシアターでは特別観望会を計画中です。ぜひご参加ください。

右の画像は、部分日食の経過の様子です。太陽の下側から欠け始め、17時前後に最も欠ける割合が大きくなります。そして、18時10分すぎに終了となります。17時前後に観察すると、肉眼でも欠けた姿がよく分るでしょう。



## 春の星を見つけよう

春の夜空には、「春の大三角」と呼ばれる大きな三角の形に並ぶ星があります。その中で最も明るい星が、「うしかい座」の「アルクトゥルス」です。

「アルクトゥルス」は、21時ころですと、南の空高く見えるいちばん明るい星です。この星を目印に、南の空を眺めると、右下に「おとめ座」の「スピカ」、右側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

右の図は、21時ころ南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。またちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることとなります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。

